完全対策講座 古文

このPDFは、製品版の冒頭5ページを抜粋した
無料の試し読みサンプルです。目次・本文の書き方・
問題の出し方を確認してから、購入をご検討ください。

購入先

・黒田塾 教材プラン（科目別・セット価格、LINEで注文）
https://kurodaschool.jp/materials/
・BOOTHショップ「東大黒田塾」（ダウンロード販売）
https://kurodajuku.booth.pm/
・科目選びの相談（無料）
https://kurodaschool.jp/contact/

※ サンプルは製品版の一部です。収録範囲・分量の全体は
各販売ページでご確認ください。
※ 本サンプルは個人の学習用です。第三者への配布・転載・
転売・共有は禁止します。
※ 購入や読了による合格・得点を保証するものではありません。

高校古文 / 構造理解テキスト

なぜ、その訳に
なるのか。

古文を、
話の流れで読む。

初学者の文法から、難関国公立の記述答案へ。
理由と流れの説明 → 穴埋め → 演習 → 直後の詳しい解説

試し読みサンプル

文法・敬語・主語・和歌・古文常識・語彙・読解・記述。
覚えた知識を、一文の意味と話の展開へ結び付ける。

TeX 組版・校正版 v5.0 / 2026 年 10 月 30 日

対象：高校古文。大学の専門的な国語学・文献研究は扱わない。

はじめに

この一冊で、何をできるようにするか

単語の訳を覚えても、誰が何をしたのかを見失えば、文章の意味はつながらない。古文は主語を省略し、語尾に否定・完了・推量・敬意を重ねる。その情報を、読む順番に沿って取り出す練習が必要だ。

本書は、初学者の文字・品詞・活用から始め、人物関係、和歌、文章の論理、国公立大学で問われる現代語訳・理由・心情説明まで進む。「なぜ」は、どの語形・言葉・場面がその判断を支えるか、という形で示す。

構成	実際にすること
準備 3 単元＋本編 33 単元	理由を理解し、下段の答えを隠して穴埋めし、別の文を解く
総合読解 3 題＋実典読解 11 題	一文から長文へ進み、全訳・本文の根拠・採点要素で確かめる
語彙 400 項目＋連語 40 項目	意味を取り出し、文脈で語義を選ぶ。語彙は全項目を穴埋めで確認
活用・接続の参照表	覚えた形を、目の前の文へ戻して使う

> 一周目：説明→穴埋め→演習。二周目：穴埋めから始め、誤った箇所だけ説明へ戻る。三周目：読解で見つかった弱点を、単元へ戻して補う。

範囲は高校古文。漢文・現代文は別教材。本書を読み終えるだけで習得とはせず、巻末の到達確認と、志望校の初見の過去問で使えるかを確かめる。

試し読みサンプル

使い方

解説を読んだ直後に、思い出してみる

1　説明では、対比を一つつかむ

例えば「咲かぬ」と「咲きぬ」の差。どの文字が変わり、なぜ否定と完了が分かれるのかを、自分の言葉で説明する。最初から長い定義を丸ごと暗唱しなくてよい。

2　穴埋めは、下段を隠して行う

「①＿＿＿＿は、②＿＿＿＿形に付く」のように、語と語の関係を取り出す。全単元の紙面に、①…答え、②…答えの対応欄を設けた。答えを見た後は、もう一度隠して言い直す。

3　演習は、答えの横に根拠を書く

各演習の直後に、同じページ内または次ページで詳しい解説が続く。長文は本文→問題→全訳と解説。正答しても根拠が違った場合は△にし、本文中の語を示せるまで確認する。

4　翌日と数日後に、先に問題を解く

一つの目安は当日・翌日・3 日後・1 週間後。日程を守ること自体が目的ではない。思い出せなかった項目を短い間隔でやり直し、安定した項目の間隔を広げる。

5　記述は、要素とつながりで自己採点する

模範答案の一字一句との一致ではなく、主語・否定・推量・因果・対比が合うかを見る。字数外なら、内容を直した後に指定内へ整える。本文にない事情を足していないかも確認する。

> 古文の学習では「読めた気がする」と「根拠を示して読める」を区別する。この本の穴埋め・演習・記述は、その違いを確かめるためにある。

試し読みサンプル

範囲と到達目標

高校古文の範囲と、この本での確認場所

高校古文は、一冊に載せた語数や作品名だけで範囲が閉じる教科ではない。まず学校文法・主要語彙・古文常識を身につけ、それを使って初見の文章を読む。本書は、その共通の土台から国公立の現代語訳・理由・心情・比較記述へ進む。

範囲	学ぶ場所	できるようにすること
文字・品詞	準 A	歴史的仮名遣いを読み、単語の境目と働きを示す
用言の活用	準 B・準 C・3	動詞 9 種類、形容詞 2 種類、形容動詞 2 種類を文中で使う
助動詞	4-9・21・22 と参照表	意味・接続・活用を照合し、同形の候補を絞る
助詞・呼応	10-12・23・24・33	主語・同格・条件・逆接・疑問・反語・願望・禁止を読む
敬語・人物	13-15・25	動作主・相手・話者・敬意の対象を分ける
和歌・俳諧	17・26・27・総合 3・実典 3・11	語法と修辞を情景・心情へ結び、散文との関係を読む
古文常識・文学史	16・18・27 と語彙	生活・身分・信仰・暦・主要作品を本文の理解に使う
語彙	2・20・28 と語彙 400 項目	現代語との差、多義語、未知語を文脈で判断する
読解・記述	19・24・28-33 と読解 14 題	根拠を拾い、訳・理由・心情・対比を答案にする

対象は「言語文化」「古典探究」で学ぶ古文と、大学入試でその知識を使う読解。漢文・現代文は別教材。大学の専門的な国語学、古写本の校訂、研究史の検討は扱わない。

試し読みサンプル

範囲と到達目標

「わかった」を、三段階で確かめる

1　知識を自分で取り出せる

下段を隠して穴埋めを解く。例えば「打消ずの連体形はぬ」「完了ぬは連用形接続」と言える。書けなかった項目だけ印を付け、翌日もう一度取り出す。

2　初めて見る一文に使える

「知らぬ人」「散りぬべし」「この花をぞ見ぬ」のように形が変わっても、前後・結び・文脈を根拠に説明できる。穴埋めの答えを覚えた段階から、判断の手順を使う段階へ進む。

3　文章の流れを、根拠のある答案にできる

人物が最初に何を思い、どの情報を得て、なぜ判断を変えたかを追う。記述では必要要素がそろっているか、因果・否定・推量が保たれているかを確かめる。読解 14 題は、文法問題から根拠を示す記述へ進めるための演習である。

順番	取り組む内容	次へ進む目安
最初	準備＋ 1-15。語彙は 16 項目ずつ並行	短文の否定・推量・主体を説明できる
次	16-28 と総合読解・実典 1-8・11	語彙・文化・和歌を文の意味へ戻せる
仕上げ	29-33 と実典 9・10、出口テスト	必要要素を字数内にまとめ、誤答の理由を説明できる

> 未見の志望校過去問で、同じ手順を時間内に使えるかを最後に確かめる。一冊を読み終えた回数や掲載問題の正答率だけで、全範囲の習得や合格を保証することはできない。